

## 野間賞選考資料

(日本印刷学会推薦文)

### 木下 堯博氏(きのしたあきひろ)

1933(昭和8)年12月23日生まれ 東京都

国際印刷大学 学長 勤務先; 東京都東村山市青葉町2-29-12

現住所; 福岡県宗像市自由ヶ丘10丁目10-8

#### 表彰主旨

木下堯博氏は千葉大学工学部工業化学科印刷専攻を卒業後、名古屋市立工芸高校、九州産業大学、国際印刷大学で47年の永きに亘り、うち、役職19年を併任しながら、印刷及び関連分野の教育と研究に貢献されている。その間に、多くの優秀な卒業生を印刷界に送り出し、その卒業生らはあらゆる分野で現在、活躍している。1957(昭和32)年より勤務の傍ら、日本印刷学会中部支部の理事をスタートとして43年間の永きにわたり学会活動に従事されました。

教育と研究に関しては多くの著書(28冊)、論文・研究発表など795編におよび多大の業績を残され、国際交流も積極的に行い、21ヶ国35回の調査活動、講演、研究発表など世界の印刷文化の発展に貢献されました。

これらにより、内外から各賞を受賞されていて、今後の氏の印刷界での活躍が期待されています。2000年4月からパーチャル大学の国際印刷大学の設立に参加し、学長兼理事として活躍し、海外の印刷系大学との交流を計ると同時にデジタル時代に対応した新しい研究・教育に取り組んでおられます。

このような氏の業績と印刷界への貢献は今後、日本の印刷出版文化発展の原動力となりましょう。

#### 主な業績

##### 1、 教育と研究

氏は名古屋工芸高校で12年、九州産業大学で32年、国際印刷大学3年の47年間に亘り、印刷学(グラフィックアーツ学)の教育と研究に貢献され、6つの分野(印刷画像史、印刷教育論、画像再現論、コンピュータ処理論、画像コミュニケーション論、21世紀の画像情報)の研究に精力的に取り組んだ。

最近の代表的論文とその内容は略歴の 研究内容に掲載している。

なお、画像再現論は研究歴も長く、学位論文はこの範疇に入っている。

1975年に全国高校印刷科教育研究会、1985年印刷教育研究会の設立に参加し、自ら印刷教育研究会の初代会長として、印刷教育のレベルアップに貢献された。

2000年にはパーチャル大学として設立された国際印刷大学に全精力を傾注した。

その他、愛知グラフィックアーツ専門学院、釜山工業専門大学、北九州職業訓練大学校などでの印刷系学科設立に貢献し、印刷の専門教育機関の拡充に東奔西走した。

印刷の教育研究を実践しながら、教育管理者として、名古屋工芸高校の印刷科長、九州産業大学の教務部長、芸術学部長、国際印刷大学校の学長として重責を担い、中等・高等教育の責務を果たした。

## 2、 学会活動

1957（昭和32）年から日本印刷学会中部支部の理事として中部地区（愛知、三重、岐阜、静岡、石川、富山、福井）の印刷技術の発展に貢献した。

中部支部が愛知印刷図書館の設立に協力することになり、その充実につとめた。

1966（昭和41）年愛知印刷短大の設立運動があり、中部支部もこれに全面的に協力し印刷工学講座などを開講した。

この運動はその後、1991（平成3）年の愛知グラフィックアーツ専門学院の誕生をみた。1968（昭和43）年印刷出版の講座を開設する九州産業大学に招聘された。

中部支部理事から西部支部理事に任用換えとなり、本部理事はそのまま継続して併任した。西部支部理事・幹事を兼任し、1970年、大阪府印刷工業組合の担当する第19回印刷文化典の歴史部門を担当した。

1995年から1997年までの西部支部と中部支部が主催した「高精細印刷画像」の講演会を中心として論文をまとめ「ファインイメージ研究」（1998年刊）を刊行した。

また、1987年から1998年までの10年間西部支部が主催した新技術・新開発商品の講演会の内容をまとめ「グラフィックアーツ産業の発展」（1998年刊）と題し、編集刊行した。このように中部支部と西部支部での活動はそれぞれの支部と本部の発展に貢献した。

## 3、 出版活動

1950年代は印刷課程の学生・生徒が利用する教科書は皆無であった。

そこで、東京、名古屋、大阪、福岡の印刷系に教員が中心となり、当時の文部省に交渉するため話し合いを進めてきたが、使用量が少ないため認められなかった。しかし、カリキュラムを統一し、統一教材として「印刷一般」を印刷学会出版部から初版を1966年に刊行した。これは氏が中部印刷時報社（現、つるぎ出版）の月刊誌に1958年から1960年まで連載した印刷技術講座がたたき台ともなった。その後、「基礎写真製版」（1980年）、「印刷及び画像材料」（1984年）いずれも印刷出版研究所刊で氏が編集委員長をつとめた。

これらの印税を原資として印刷教育研究会が1985年に設立された。

Drupa 90の成果として「クリエイターのための印刷ガイドブック No.5 デジタル編」は氏を中心とした4名の編集者と23名に上る執筆者の協力により、1993年12月に刊行された。デジタル時代の先駆けとして、広く教材として利用された。

「芸術学研究のための画像データベースに関する研究」（1992年刊）は芸術学部長時代

の計画を実現したもので1990年から1992年までの3年間で25年間かけて収集された作品（絵画、彫刻、書など）をデータベース化し、デジタルアーカイブともなった。

#### 4、 国際交流

氏の国際交流は1964年のハイデルベルグ大学等の留学にはじまり、今日まで21ヶ国35回の調査・研究・発表・討論などに及んでいる。

海外の印刷系の大学・研究所として交流した主たる大学研究所として、中国文化大学、世新大学、台湾師範大学、工業技術院、台湾印刷工業研究センター（台湾）、釜慶大学校、中部大学校、仁川工業専門大学、機械工業技術院、ハンソール科学研究所（韓国）、北京印刷学院、上海印刷出版専門学校、北京科学研究所（中国）、ロチェスタ - 工科大学、ピッツバーク大学、イリノイ州立大学、キングケネディ専門大学（アメリカ）、ロンドン印刷大学、PIRA（イギリス）、ダルムシュタット工科大学、マインツ大学、ケルン工科専門大学（ドイツ）などを代表とする大学との交流、印刷博物館、図書館として、清州古印刷博物館、ハンソール紙の博物館（韓国）、中国印刷博物館（中国）、グーテンベルグ博物館、新聞博物館、ライブチヒ印刷博物館（ドイツ）、セント・ブライトン印刷図書館（イギリス）などとの交流により、カリキュラム整備、研究交流、学生相互の交流など成果をあげた。

世界の4大印刷展示会には参加し、新しい技術動向を調査し、発表している。IPEX2002では特設会場で開催された Vision にも参加し、イギリスの19の大学・研究所との交流を行った。

1982年教務部長として福岡市で国際印刷教育会議を開催し、日本全国及びアジアから多数の印刷系教員の参加があり、アメリカ、ヨーロッパに於ける印刷教育の交流の基礎となった。

#### 5、 大学行政と地域への還元

九州産業大学における32年間の大学生活のうち、教務部長8年、芸術学部長4年の役職を併任した。当時6学部13学科で12,000名の学生の指導と教育研究との両立は激職で、多くの会議をこなし、事務処理もスムーズに果たした。入試、入学、単位認定、就職、卒業判定、卒業、シラバス公開、研究成果の公表などの多くの業務をこなし、自己点検・評価委員会では大学全体にわたる各分野の点検と評価から改善に向けて機敏に対応して成果をあげた。大学新聞では学生に、学問に対する姿勢を、先駆者の思想を引用、解説して、好評を博した。氏の信条として「平等・創造・前進」をキーワードをして大学行政にあたった。国際印刷大学校でもこの精神が生かされている。

大学の活動や学会活動の成果は基本的に地域へ還元であり、それらの成果は多くの印刷人により活用されることが大切である。

中部支部時代に愛知印刷図書館の設立はここにあり、印刷の啓蒙運動は学会や工業会を通して広く市民にアピールすることであった。

印刷文化典、印刷機材展では大学や学会の成果などを印刷人、広く市民に還元することを実践してきた。

## 略歴

### 、 学歴

1、 1956（昭和31）年3月 千葉大学工学部工業化学科印刷専攻卒業

2、 1985（昭和60）年3月 工学博士（東京大学）7271号

論文題目： メチルビニルケトンの重合とポリマーのフォトレジストに関する研究

### 、 職歴

1956（昭和31）年4月 名古屋市立工芸高等学校助教諭

1956（昭和34）年7月 同校 教諭

1964（昭和39）年4月 同校 印刷科長（4年間）

1968（昭和43）年4月 九州産業大学芸術学部助教授

1975（昭和50）年4月 同大学同学部教授

1969（昭和44）年10月 佐賀大学教育学部非常勤講師（1979（昭和54）年  
3月までの10年間）

1979（昭和51）年4月 九州産業大学教務部長（4期8年間）

1983（昭和58）年4月 同大学芸術学部長（2期4年間）

2000（平成12）年4月 国際印刷大学学校代表

2000（平成12）年6月 国際印刷大学学校学長兼理事

2002（平成14）年12月 現在に至る

### 、 受賞及び表彰（主たるもの）

1、 1970（昭和45）年7月 大阪府印刷工業組合感謝状  
（第19回印刷文化典への協力）

2、 1972（昭和47）年11月 日本印刷学会中部支部功績賞  
（中部支部、本部理事としての貢献）

3、 1977（昭和52）年2月 日本印刷学会論文賞  
（メチルビニルケトンの基礎的研究）

4、 1977（昭和52）年5月 第4回九州印刷機材展感謝状  
（福岡印刷若葉会への協力）

5、 1978（昭和53）年11月 日本印刷学会感謝状（中部支部役員として学会協力）

6、 1978（昭和53）年11月 福岡県印刷工業組合感謝状  
（プリンティングフェア78に協力）

- 7、1979（昭和54）年4月 日本印刷学会西部支部感謝状  
（西部支部理事として貢献）
- 8、1985（昭和60）年10月 福岡県印刷工業組合感謝状  
（85福岡印刷文化展への協力）
- 9、1986（昭和61）年5月 日本写真学会グラフィックアーツ賞  
（感光性ポリマーの研究）
- 10、1988（昭和63）年7月 釜山工業大学感謝状（印刷工学科設立への貢献）
- 11、1991（平成3）年5月 日本写真学会功労賞(学会運営に尽力)
- 12、1993（平成5）年2月 日本印刷学会功労賞（学会の運営と発展に貢献）
- 13、1994（平成6）年5月 印刷教育研究会論文賞（印刷教育の論文と人材育成）
- 14、1997（平成9）年4月 韓国印刷学会功労賞（韓国印刷学会設立への貢献）
- 15、1997（平成9）年3月 日本印刷学会中部支部特別功労賞（支部運営に尽力）
- 16、1997（平成9）年6月 印刷教育研究会功労賞  
（設立から4期8年会長としての貢献）
- 17、1998（平成10）年3月 九州印刷文化出版社印刷文化賞  
（西日本地区の印刷文化発展に貢献）
- 18、1998（平成10）年5月 全日本印刷工業組合連合会感謝状  
（業界教育の振興）
- 19、1998（平成10）年8月 愛知グラフィックアーツ専門学院功労賞  
（設立から中部地区の発展に貢献）
- 20、2001（平成13）年6月 韓国印刷学会国際会議 **Guest Speaker**  
（国際会議で世界のバーチャル大学の論文発表）

#### 、学会歴など（主たるもの）

- 1957（昭和32）年～1967（昭和42）年 日本印刷学会中部支部理事（11年）
  - 1968（昭和43）年～1999（平成11）年 日本印刷学会西部支部理事、幹事  
（32年）
  - 1964（昭和39）年～1975（昭和50）年 日本印刷学会本部理事（6期12年）
  - 1984（昭和59）年～1992（平成4）年 印刷教育研究会会長（4期8年）
  - 1990（平成2）年4月～1992（平成4）年3月 日本デザイン学会評議員
  - 1982（昭和57）年4月～1998（平成10）年3月 日本電子製版工業会顧問
  - 1993（平成5）年～現在 印刷教育研究会顧問
  - 1991（平成3）年4月～1996（平成8）年3月  
愛知グラフィックアーツ専門学院顧問
  - 2001（平成13）年4月～現在 デジタルワークコンテンツ協会顧問
- その他、TAGA, 日本写真学会、日本デザイン学会、高分子学会、応用物理学会、プリント

回路学会、画像電子学会、電子写真学会などで活躍をした。

## 、国際交流

1964(昭和 39)年

(1) ハイデルベルグ大学留学 高分子化学を修得、その後

(2) 英、仏、伊、東独、オランダ、ベルギー、デンマーク、チェコスロバキア、ルクセンブルグ、スイス、ギリシャ、インド、香港 計 14 ヶ国の大学、研究所等、「視察と討論」

1980(昭和 55)年

4月(3)PRINT '80 イリノイ州立大学、キングケネディ大学(シカゴ)

「Print 視察と大学での討論」

7月(4)釜山工業専門大学 「アメリカの報告」

1981(昭和 56)年

8月(5)台湾大学、台湾師範大学、東呉大学、中国文化大学(台北)「印刷課程での討論会」

1982(昭和 57)年

6月(6)DRUPA 82、マインツ大学、ダルムシュタット工大(ドイツ)

「DRUPA 視察と印刷文化、色再現の討論」

7月 国際印刷教育会議(福岡市)日本で初めて印刷教育の国際会議の開催

1987(昭和 62)年

8月(7)釜山開放大学、韓国出版文化協会「高精細印刷画像の伝送」

1988(昭和 63)年

2月(8)釜山工業大学(同上第2報) 8月(9)海印寺「世界遺産の調査」

1990(平成 2)年

5月(10)DRUPA 90、ケルン専門大学、ダルムシュタット工大(ドイツ)

「Color & Text Image Transmission」

1991(平成 3)年

5月(11)香港コンピュータ学会、中国深 「印刷産業討論会」

9月(12)PRINT 91 シカゴ、ニューヨーク、カナダ

「アメリカ印刷産業の将来、PRINT'91 討論会」

1992(平成 4)年

5月(13)TPG 92、フランス、ドイツ、ベルギー「DTP と Creative Design」

11月(14)台湾師範大学、中国文化大学 「印刷産業の発展と印刷教育」

1993(平成 5)年

9月(15)韓国江華島「活字誕生の調査」

11月(16)釜山工業大学「印刷教育の変遷」

1994(平成 6)年

7月(17)Joint Meeting(釜山工業大学)「印刷教育の変遷」

#### 1995(平成7)年

5月(18)DRUPA 95(ドイツ)、ライデン大学(オランダ)「High Definition Print Image」

8月(19)中国文化大学、香港中文大学「デジタルカラー印刷の発展」

8月(20)清州古印刷博物館、釜山工業大学「今後の印刷国際交流」

#### 1996(平成8)年

2月(21)釜慶大学校(釜山)「印刷文化伝来調査」

8月(22)国立科学博物館(太田)、清州古印刷博物館(清州)「印刷文化伝来調査」

9月(23)北京印刷学院、上海工程大学「中国と日本の印刷文化」

#### 1997(平成9)年

4月(24)韓国印刷学会(ソウル)「デジタル導入と将来展望」

9月(25)PRINT 97(シカゴ、ニューヨーク)「Color Management in Graphic Arts Industry」

9月(26)ユネスコ会議、ソウル大学(ソウル)「Early Printing History」

#### 1999(平成11)年

3月(27)韓国印刷学会(ソウル)「出版印刷の動向」

8月(28)世新大学、中国文化大学、印刷工業技術研究センター(台北)「DDCP と CTP の動向」

#### 2000(平成12)年

5月(29) drupa2000 とライプチヒ印刷博物館(ドイツ、ポーランド)  
「印刷画像のデジタルアーカイブ」

6月(30)釜慶大学校画像情報学部(釜山)「drupa2000の報告」

10月(31)清州古印刷博物館(清州出版印刷文化 EXPO2000)「各国の印刷文化の発展」

11月(32)KAGAIT(ソウル)「印刷の標準化」

#### 2001(平成13)年

6月(32)韓国印刷学会国際会議(中部大学校)「The Virtual University in the World」

9月(33) PRINT01(シカゴ)「プロトタイプから実用機へ」

11月(34)PDP 討論会(釜山)

#### 2002(平成14)年

4月(35) IPEX2002(ロンドン、バーミンガム)「CMS と IPEX」

#### 、主たる著書一覧

(1) 木下堯博ら編著；印刷一般、印刷学会出版部(1966年初版～1973年改定4版)

(2) 木下堯博ら編著；印刷事典、日本印刷学会編(1967)

(3) 木下堯博ら編著基礎写真製版、印刷出版研究所(1980)

(4) 木下堯博ら編著；カラスキャナー表現、印刷出版研究所(1980)

(5) 木下堯博ら編著；印刷及び画像材料、印刷出版研究所(1984)

- ( 6 ) 木下堯博ら編著；コンピュータとデザイン、印刷出版研究所（1986）
- ( 7 ) 木下堯博ら編著；改訂版基礎写真製版、印刷出版研究所（1987）
- ( 8 ) 木下堯博ら編著；カラープルーフコミュニケーション、印刷出版研究所（1988）
- ( 9 ) 木下堯博ら；第4版基礎写真製版、印刷出版研究所（1991）
- ( 10 ) 木下堯博ら編著；芸術学研究のための画像データベースに関する研究、  
九州産業大学（1992）
- ( 11 ) 木下堯博ら編著；印刷ガイドブック、No. 5 デジタル編、玄光社（1993）
- ( 12 ) 木下堯博；印刷画像史～木下堯博論文集（第1巻）～、九州産業大学（1994）
- ( 13 ) 木下堯博ら編著；高精細印刷画像論（ ） 日本印刷学会西部支部（1995）
- ( 14 ) 木下堯博；印刷教育論～木下堯博論文集（第2巻）～、九州産業大学（1995）
- ( 15 ) 木下堯博ら編著；高精細印刷画像論（ ） 日本印刷学会中西部支部（1996）
- ( 16 ) 木下堯博ら編著；高精細・デジタル印刷技術ガイドブック、日刊工業新聞社（1996）
- ( 17 ) 木下堯博ら著；デジタルコミュニケーションに関する調査研究、  
九州印刷文化出版社（1996）
- ( 18 ) 木下堯博；画像再現論～木下堯博論文集（第3巻）～、九州産業大学（1997）
- ( 19 ) 木下堯博ら編著；高精細印刷画像論（ ） 日本印刷学会中部支部（1997）
- ( 20 ) 木下堯博ら著；コンピュータツウプレート（CTP）に関する調査研究、  
九州印刷文化出版社（1997）
- ( 21 ) 木下堯博ら著；文化と新しい視点～九州産業大学公開講座10巻～、  
九州大学出版会（1997）
- ( 22 ) 木下堯博ら編著；グラフィックアーツ産業の発展に関する研究～新技術・新開発  
商品10年～、日本印刷学会西部支部（1998）
- ( 23 ) 木下堯博ら編著；ファインイメージ研究、日本印刷学会中西部支部（1998）
- 各分野の共通著書及び論文集**
- (1)木下堯博；画像情報の展望 2020年へのアプローチ  
全175頁（1994年3月）
- (2)木下堯博；グラフィックアーツ学研究上巻（印刷画像史14編、印刷教育論  
21編、画像再現論31編） 木下堯博論文集  
全157頁（1997年3月）
- (3)木下堯博；グラフィックアーツ学研究中巻（コンピュータ処理論26編、画像コ  
ミュニケーション論20編） 木下堯博論文集  
全137頁（1998年3月）
- (4)木下堯博；グラフィックアーツ学研究下巻（21世紀の画像情報36編）  
木下堯博論文集  
全190頁（1999年3月）
- (5)木下堯博；グラフィックアーツ学研究別巻（印刷画像史18編、印刷教育史15編



画像再現論 5 編、 コンピュータ処理論 5 編、 画像コミュニケーション論 4 編、 新聞論評、 大学新聞など)

木下堯博論文集 全 4 6 8 頁 ( 2 0 0 0 年 3 月 )

これらの著書は東京の印刷図書館に保存されている。

### 、主たる論文 ( 各部門の概要と代表的論文 )

6 分野の研究領域に対して約 7 9 5 編の論文、 研究発表、 著書、 特許、 小論文、 翻訳などがある。 研究の目標は出版印刷文化の発展の定量的仮説にもとずき 6 つの分野を統合して印刷界の将来への展望をまとめることにある。 各部門の研究内容と最近の代表的論文それぞれ 2 編 ~ 3 編をまとめた。

#### 1、 印刷画像史 ( 主論文 3 2 編、 研究発表等 2 4 5 編 )

九州各地 ( 天草版、 本木昌造、 木村嘉平、 マルコ・ドロ神父など ) の日本における印刷出版の先駆的業績の研究を中心として、 世界各地の印刷史に関し調査研究してきた。

グーテンベルグの印刷の発明は東洋 ( 中国、 韓国 ) の活字や紙の発明に影響を与えたとの仮説をたて研究をして来た。 この ( 1 ) の Gutenberg JahrBuch では 1 9 9 7 年ソウルで行われたユネスコ会議で発表した内容をまとめた。

( 2 ) の論文は清州古印刷博物館で行われた印刷文化史の国際会議で報告したものである。

( 1 ) Akihiro KINOSHITA; Early Printing History in Japan

Gutenberg JahrBuch 1998 pp31~35(1998), Gutenberg Gesellschaft,  
Mainz University

( 2 ) Akihiro KINOSHITA; Development of Modern Printing Technique in Japan

Cheongju Early Printing Museum pp156 ~ 184(October12 ~ 13, 2000)

#### 2、 印刷教育論(主論文 3 5 編、 研究発表等 2 0 4 編)

製版印刷分野の教育は美術から分化し、 先輩諸氏は明治、 大正、 昭和時代にその教育内容を蓄積してきた。 平成時代に入り、 デジタル対応の印刷教育が急速な体系化を迫られている。 印刷教育の根源は印刷文化の発展に貢献すると同時に理論研究から O J T まで多方面にわたり研究をしている。 又、 高等教育での印刷教育のあり方の研究を対象とした。 さらに、 海外の印刷系大学の調査も行っている。 第 1 3 回印刷文化典で全国の印刷教育機関を紹介展示した。( 3 ) の論文は訪台 4 回目であり、 各地で講演及び討論をおこなった。 台湾の経済発展と研究開発など統計データから論じた。

( 4 ) は国際印刷大学校の基礎学科目であるグラフィックアーツ学のバーチャル教育の実践内容を受講生とともにまとめた。

( 3 ) 木下堯博 ; 中華民国 ( 台湾 ) の発展の印刷事情 ( 第 4 報 ) デジタル化の進展

印刷雑誌 82[11]19~23(1999)

(4) 木下堯博、小林盛夫；グラフィックアーツ学のバーチャル教育

国際印刷大学校研究報告創刊号 37～50(2001)

### 3、 画像再現論（主論文35編、研究発表等251編）

この分野の研究歴は長く、オフセット印刷を中心にインキ転移論、調子再現論、色再現論、高精彩印刷画像論などを研究の対象とした。

また、スクリーン印刷によるPDP（壁掛けTV）のリブ形成のための基礎研究も行い70インチPDPの実現にむけチャレンジしている。(5)の論文はリブ形成のための紗に圧力変化させ印刷の結果を推定した。

(6)の論文は韓国印刷学会誌で枚葉オフセット印刷とDIなどの動向をまとめた。

(7) IPEX2002の報告にその後の動向を加え、特にCMSの基礎的内容を加えた。

(5) 木下堯博、内藤郁夫、木村高士、大下浩二；

壁掛けテレビジョンの基板製作 スクリーン印刷によるリブ形成

印刷雑誌 82[9]35～39(1999)

(6) Akihiro KINOSHITA & S. Nam

A Trend of Sheet Fed Offset Printing Machine

Bull. of Korean Printing Society 19[2]1～11 (2001)

(7) 木下堯博； CMS と Post-IPEX2002, <http://www.media-line.or.jp/kinoshita>

(2002年8月1日更新HP)

### 4、 コンピュータ処理論（主論文31編、研究発表等252編）

コンピュータによる画像再現はコンピュータグラフィックスの印刷への応用、コンピュータアニメーションなど論文と作品制作に始まり、トータルスキャナの活用、データベースの構築、画像伝送などを行った。(8)の論文はユネスコ活動の一環として世界の印刷文化遺産データベース化の研究も行い、2000年 drupa の帰路、ライプチヒ印刷博物館で発表した。(9) PRINT01 の報告。

(8) 木下堯博；世界の印刷文化遺産のデータベース化に関する研究、

電気通信普及財団研究調査報告書[14]253～263(1999) (2000年2月)

(9) 木下堯博；プロトタイプから実用機へ—PRINT01

印刷雑誌 84[11]21～26(2001)

### 5、 画像コミュニケーション論（主論文24編、研究発表等148編）

印刷画像とのヒューマンインターフェースを取り扱う分野で、画像評価としてファージー推論、文字印刷画像の可読性、感性データベースなど物理量と心理量とを組み合わせ新しい画像設計の基礎を確立した。高齢化社会を迎えるにあたり、人間にやさしい印刷画像設計をまとめてきた。

論文(10)は印刷画像上に於ける文字フォントの可読性などの基礎的研究をまとめた。

(11)の論文はこれまで行って来た新聞折込広告、肌色再現、タウン誌などの研究から文字コミュニケーションに関しまとめた。(12)印刷分野での世界のバーチャルユニバシターに関してまとめた。

(10)木下堯博;デジタルフォントの可読性に関する研究、プリメディア[11]90~93(1999)  
(印刷出版研究所)

(11)木下堯博;画像コミュニケーションに関する研究 プランナー35[9]18~21(1998)

(12)木下堯博;印刷界におけるバーチャルユニバシター研究、  
国際印刷大学校研究報告第2巻2~10(2002)

## 6、 21世紀の画像情報(主論文36編、研究発表等174編)

1996年に世界の印刷業での印刷出荷額は約31兆円と推定されている。

日本はその19%を出荷していてアメリカについて2位となっている。

これらをサポートするプレス・プレプレスなどの機械類はドイツ、アメリカ、日本を中心に出荷されている。これらはGDPとの比例関係が成り立つが伸び率はそれぞれ低下傾向にある。このことは電子メディアの急激な発展の影響が考えられよう。(13)では日本と世界の印刷業の発展過程をまとめた。最終講義(14)では人類史上最も偉大な発明である印刷出版文化の44年間の研究をまとめた。(15)印刷業の2020年への展望をまとめた。

(13) Akihiro KINOSHITA & Shin WATANABE

View of Japanese Graphic Arts Industry in The 21<sup>st</sup> century

九州産業大学芸術学部研究報告 第25巻1~4(1994)

(14)木下堯博;人類史上最も偉大な発明 出版印刷文化へのチャレンジャー

九州産業大学最終講義要旨集 pp1~23(2000年3月15日)

(15)木下堯博;2020年へのチャレンジ、回顧と展望さらなる挑戦

(40周年記念誌)東京グラフィックサービス工業会(2002年6月)

以上、この6つの研究分野は国際印刷大学校{詳細は日本印刷学会誌 39[2]123(2002)に掲載}に引き継がれている。

詳細は <http://www.media-line.or.jp/kinoshita>

を参照して下さい。

(2002年8月5日記)

以上